

専攻	システム 情報工学	学籍番号		指導教官氏名	
申請者氏名	篠部 裕				

論文要旨

論文題目	企業都市における中核企業の盛衰に伴う都市施設整備に関する研究
------	--------------------------------

(要旨 和文 1,200字程度)

本論文は、企業都市における中核企業の盛衰に伴う都市施設の整備過程と今後の企業による都市施設整備のあり方について論じた基礎的研究である。

ごく一部の中核企業を中心に形成された企業都市と呼ばれる都市では、中核企業の盛衰が都市に及ぼす影響は極めて大きい。国の産業政策や構造不況などの経済的要因により企業都市において中核企業が事業を縮小或いは閉鎖した場合、雇用問題と共に様々な都市施設の整備問題が生じることとなる。企業都市では中核企業が円滑に事業活動を展開するために、様々な都市施設整備を行っており、企業関連の施設が都市空間に占める比重は少ない。また、企業と地域社会の間には何らかの協調が試みられ、企業施設の地域住民への利用開放などが公共的な都市施設整備に果たす役割は少なくない。従って、中核企業の衰退を伴う企業都市の都市施設については、単に企業の事業施設の処分としてだけでなく、地域社会の公共的利用に資する生活施設の整備問題としても着目する必要がある。また、企業都市における企業による都市施設の整備内容は、今後の都市施設整備に企業の果たす役割やあり方を位置づけていく上で、何らかの基礎的示唆を与えてくれるものと考えられる。

この様なことから、本研究は企業都市における中核企

業の盛衰に伴う中核企業と地元自治体による都市施設の整備過程に着目し、企業都市における都市施設整備の実態を明らかにすると共に、今後の企業による都市施設整備のあり方についての基礎的指針を得ることを目的としている。本研究の主な対象は、重厚長大型産業の下に形成されたわが国を代表する企業都市の4市1町（夕張市、釜石市、因島市、新居浜市、高島町）である。

本論文は、序論、本論（6つの章）、結論より構成されている。まず、序論では、研究の社会的背景、目的と意義、企業都市の概念、既往研究の動向と本論文の位置づけについて整理した。第1章は、構造不況業種が集中する特定地域の市町村の人口構造の経年変化を国勢調査資料などに基づき明らかにした。第2章は、中核企業の発展に伴う都市施設の建設過程とその実態、企業が公共的な都市施設整備に果たした役割を、第3章では、中核企業の衰退に伴う都市施設の再編過程と地元自治体の取り組みをそれぞれ明らかにした。第4章は、重厚長大型の不況業種を主産業とする市町村が抱える都市問題と再編の取り組みの実態をアンケート調査に基づき明らかにした。第5章は、中核企業の盛衰に伴う都市整備問題の中から市街地整備問題に対象を絞り、中核企業と地元自治体の諸施策を対応させて、企業都市における中核企業の衰退に伴う市街地の再整備過程を比較分析した。第6章は、企業による都市施設整備を今後の計画論に位置づけて行くための課題を若干ではあるが論及した。結論では、本論の各章で得られた知見を整理し、総括した。